

第2520地区

 ひろがれ
 まわれ
 一つ心に
 2019～2020

MORIOKA
 ROTARY CLUB WEEKLY

第20回例会(12月6日)
 令和元年12月13日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10 会 長 西島光茂
 川徳デパート内 幹 事 勝 雅行
 例 会 場 同上 TEL 019 (651) 1111(代) 会 報 金沢 滋
 例 会 日 毎週金曜日12時30分～ クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682
 http://www.morioka-rc.jp/ FAX 019 (653) 5622

RI会長テーマ ROTARY CONNECTS THE WORLD:ロータリーは世界をつなぐ...マーク・ダニエル・マローニー
 盛岡RC会長テーマ 一令和元年:世の為、人の為、奉仕を続け、輪を繋げましょう-西島光茂



ゲスト卓話

「てくり」の15年と、取材を通して見た「盛岡」

まちの編集室
赤坂 環 様

●スピーカー紹介●

赤坂環さん：盛岡市出身・在住。東京の大学卒業後、キックマンから出版社勤務を経て盛岡市に帰郷後、岩手の食材や食文化の深さに気づき、取材等で各地を訪ね歩く。食べることへの執着が強く、フランス料理店「シェ・ジャーニー」（盛岡）のレシピ本を自費出版するまでに。岩手食文化協会会員。

1. ミニコミ誌「てくり」創刊から

本日はお招きいただき、ありがとうございます。
 「てくり」とは、有限責任事業組合「まちの編集室」が制作・発行する、2005年創刊のミニコミ誌です。「まちの編集室」とは、フリーランスでライター・デザイナーとして活動する水野ひろ子、木村敦子、赤坂環のユニット。B5判変型・オールカラー・40ページで税抜き600円、年2回発行し岩手県内や全国各地の書店・雑貨店など約90軒で販売しています。

タイトルの「てくり」は、「てくりてくりと歩く速度で、丁寧に町を見よう」「てづくりを愛する」「厨(くりや=台所)の感覚」「クリアーな視点」など様々な意味を持たせた造語。「伝えたい、残したい、盛岡の『ふだん』を綴る本」をキャッチフレーズに、毎回、盛岡の人・モノ・コトを紹介しています。「ふだんを綴る本」とは、日常である「ケ」の出来事や暮らす人を取り上げる本、という意味です。

創刊のきっかけは2000年、フリーランスが集まる会合で、デザイナーの木村と、当時盛岡でフリーライターをしていた滝沢真喜子さんが、「クライアントの意向にとらわれない紙媒体をつくろう」と意気投合したことでした。そこに現在のメンバーが加わり、2005年5月に創刊。岩手県からグループで請け負った仕事の原稿料などを創刊資金に充てました。時代は、全国各地でミニコミ誌が創刊された、いわゆる「第一次ミニコミ誌ブーム」で、ありがたいことにその波に乗って、1000冊印刷した創刊号はすぐに完売（直後に増刷）。広告を入れないので、売上げを次号の制作費に充てる「自転車操業」ではあるのですが、1年に2回のペースで、28号まで発行しています。



2. 編集長は置かないルール

また、「てくり」発行から、様々な活動が派生しました。例えば、岩手県内の手仕事工房を紹介する「tenote」など別冊の発行、本の発行記念イベントの開催、ラヂオもりおかでの番組（15分コーナー）「ほにほにラジオ」の放送、取材先とのコラボ商品の開発、「shop+spaceひめくり」（紺屋町）のプロデュース、岩手の手仕事品の販売サイトの開設・運営などです。今年度は、岩手銀行赤レンガ館での岩手銀行主催イベント「赤レンガ伝統工芸館」（4回開催）の運営にも携わりました。

「てくり」はおかげさまで、来年15年目を迎えます。その間、雑誌や新聞、ウェブサイトなど多くのメディアで紹介していただきましたが、創刊までの経緯とともに必ず質問されるのが、「てくり」を制作する上でのルールやコンセプトです。自分たちが話を聞きたい人・行きたい場所を取り上げること、「編集長」というポストは置かず何かを決める時には「3人のうち2人が賛成すればOK」とすること、テーマに関わらず「人に寄った」

あるいは「人を柱に立てた」内容にすること、などがその一例です。盛岡を訪れたことがない読者から、「てくりを読むと盛岡の街の雰囲気わかる」と言っていたことがあります。街をつくっているのは「人」であり、それを紹介することで街の特性を紹介することにつながっているのかなと感じています。

3. てくりてくりのペースで

毎号の特集テーマは、「自分たちが取り上げたいモノ・人」をベースにして決めています。つい先月発行となった28号は、「モリオカランドスケープ2019」というタイトルのもと、医大の移転、岩手公園芝生広場への商業施設建設計画、ななっくの閉店、新しい盛岡バスセンターの整備計画など、変わりつつある街なかの景観をテーマにしました。巻頭では、建築士夫妻による建物めぐりの記事を掲載したのですが、取材時のお二人の「建物は街や空間をかたちづくるものなので、どう使われていくかが大事」「時代は変わっても公園の役割は変わっていないと思うが、人の暮らし方や人口構造

の変化に合わせて公園の管理方法が変わっていることは自然な流れ」といった言葉が印象的でした。街の景観づくりは、いま住んでいる私たちの意識や感性にゆだねられているだけに、公募設置管理制度（Park-PFI）も含めていろいろ議論されていますが、未来を生きる人たちのために私たちに何ができるかを真剣に考えなくてはいけないと思いました。

このような約15年間の取材を通じて、盛岡という街について新たに発見したことがたくさんあります。メディアからの取材を受けた際、「盛岡の街の魅力」についてもよく質問されるのですが、それに対して、「規模感がちょうど良い」「三方よしの考え方が根付いている」「文化度が高い」「移住者を受け入れる寛容さ」と答えています。だからといって、「そんな盛岡の魅力を発信したい」などというおこがましい考えはありません。あくまでも自分たちの興味関心のおもむくままに、「てくりてくり」のペースで続けられたらと思っています。

例会報告

第20回例会 令和元年12月6日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 西島光茂会長
- ・国歌 君が代
- ・ロータリーソング
(奉仕の理想)
- ・ゲスト 赤坂環様 (まちの編集室)
- ・会長報告 西島光茂会長
- ・皆出席バッチ 勝雅行君 (5年)
- ・入会祝 吉田育弘君
- ・誕生祝 平井滋・桜下信君
- ・結婚祝 勝部民男君
- ・幹事報告 勝 雅行幹事
終了後定例理事会開催
- ・委員会報告

【ニコニコBOX】

- ◆岩野光君…先日の盛岡文士劇での口上、NHKの大久保局長が出演、客席の私と目が合ったのが災いしたのか、セリフを忘れた様に見えました。しかし後で考えたら大久保局長が受けをねらって、わざとセリフを忘れたのではないかと思いました。次の機会には是非、舞台の上の大久保局長を期待しています。
- ◆大久保嘉二君…あす夜7時30分からの「プラタモリ」は花巻が舞台です。テーマは「花巻はなぜ宮沢賢治を生んだ？」岩手県内のプラタモリは3年前の平泉以来2か所目です。盛岡にも来てほしいものです。

どうぞご覧ください。

- ◆西島光君…12月3日(火)、IBC岩手放送 ニュースエコーで、ラオス医療器具支援が取り上げられました。眞下卓也会員に感謝申し上げます。アフガンで亡くなられた中村医師の仕事とは比較はできませんが、援助してほしいというラオスからの一筋の電波に呼応して、盛岡ロータリーとして支援できたことは嬉しいことでした。アジア人としての日本人を意識しました。もう少し『The Rotary Foundation: 世界で良いことをしよう』をしませんか！

- メークアップ
ラオス=勝・西島・岡村君
IM=近藤・白石・石田君
クラブ委員会=畠山・西館・吉江君

出席報告

会員数/76名

出席数/46名

出席率/63.89%

前々回/69.01%



プログラムのお知らせ

- ・12月13日(金) 年次総会
- 20日(金) 年忘れ家族会
- 27日(金) 年末休会
- ・1月3日(金) 年始休会
- 9日(休) 新年慶寿の会 (10日例会変更)
- 17日(金) 卓話



●本号編集担当/福田 荘介